

【普通科】 3年次 【必修・選択】 科目「探究古典」授業のシラバス

1 概要

教科名	国語	科目名	探究古典	単位数(コマ数)	2単位(70コマ)
科目の目標	文法や語句の意味に基づいて、古典を的確に読解する能力を養い、それぞれの作品の時代背景や文学史的意味を理解する。古典作品の読解を通して、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確にとらえ、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。				
教科書(出版社)		副教材(出版社)	体系古典文法（数研出版） 重要古典単語［三訂版］（桐原書店） 漢文基本ノート（浜島書店） ビジュアルカラー国語便覧（大修館書店） ※古語辞典、漢語辞典、電子辞書もあるとよい。		

2 学習の方法

(1) 予習について

基本的に毎時間、授業の始めに小テストを実施します。内容は古文単語、古典文法、漢文句法などです。予め小テストの内容、範囲を伝えますので、必ず予習しましょう。また、テキストの演習問題を中心に読解に取り組みますので、単語の意味を調べたりするなどの予習が必要となります。2年次までに学習した古典の知識を土台として授業が進みます。テキストの演習問題を事前に読んで、「忘れていること」「理解が足りないこと」を見つけたら、副教材を活用して確認する姿勢が、学力を高める結果につながります。

(2) 授業について

古典では使用する副教材も多いので、忘れ物をしないようにしましょう。演習問題における読解の解説を中心にを行います。積極的な姿勢で授業に臨みましょう。予習で問題に取り組んだとき、自学自習では解決できなかった疑問点は、ここで先生に意欲的に質問して解決してください。また、友人が分からないことは、教えてあげることで自分の理解も深まり、学力を定着できます。このとき、電子辞書や「古語辞典」「漢語辞典」を用意するとよいでしょう。受験で古典が必要な生徒は、辞書が学習に必須ですので、特に推奨します。

(3) 復習について

授業で学習したことをその日のうちに復習しましょう。授業で学習した本文の内容（口語訳、書き下し文）を確認するとともに、単語や文法、句法については重点的に復習するようにしましょう。その際、『体系古典文法』、『重要古典単語』、『漢文基本ノート』『国語便覧』といった副教材を参照して復習することで、より理解が深まります。予習や授業で見つけた疑問点とその答えをまとめ、さらに浮かんだ疑問があれば積極的にその後の授業や学校生活で先生等に質問し、学びを深めましょう。

〈学習アドバイス〉

古典の成績を上げる一番の近道は「古典が好きになること」ですが、自分が好きな文章だとか嫌いな文章だとかに関わらず、必要な基礎知識を活用して内容を把握し、読解できるようにすることが目標です。

その基礎知識となるのが、古典文法、漢文の句法、現代語と違った単語の意味や使い方の違い、時代背景、風俗・習慣、人生観・死生観などといったものになります。これらの知識を基に、どれだけの確に現代語訳(口語訳)ができるかが重要となります。

できるだけたくさんの文献に接して、古典の文章に慣れることも重要ですから、積極的に演習問題に取り組み、問題本文の登場人物、人間関係、出来事(事件)、作者(筆者)の考え方などを把握できるかが問われます。

受験まで気を抜くことなく、予習・復習に取り組んでください。

3 評価について

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
① 関心・意欲・態度	それぞれの作品について積極的に内容を読み取り、理解して、自力で現代語訳を作ることに積極的に取り組むことができたか。(授業や提出物に対する取り組み姿勢を評価します。)
② 読む能力	古典語句や文法、語法の知識を基に内容を的確に読み取り、作者の考え方、登場人物の心情を理解できたか。(古典の文章を的確に読み取り、筆者の主張を読み取ることでできているかを評価します。)
③ 知識・理解	古典の読解に必要な音声、文法、表記、語句等を理解し、それらの知識を身に付けることができたか。(単語、文法、句法などの基礎知識が身に付いているかを評価します。)

(2) 評価の方法（以下観点①～③は「(1) 評価の観点」と対応する）

評価材料		定期考査・確認テスト 実力テスト		小テスト	授業・ノート等	レポート等	休業中の課題
観 点	割合						
① 関心・意欲・態度	10%			○	◎	◎	◎
② 読む能力	60%	◎	学習の状況に応じて、授業で学習した文章の他に、初見文を出題することがあります。		○	○	○
③ 知識・理解	30%	◎	『体系古典文法』、『重要古典単語』、『漢文基本ノート』から範囲を指定して出題することがあります。	◎		○	○

〈担当者からのメッセージ〉

忘れ物をしないこと、提出物は期限を厳守することが大切です。ノートなどを提出する際は授業の中で説明をしますので、しっかり聞いて確認しましょう。テキストやプリントなどの教材を紛失しないようにきちんと管理することも心がけてください。

学習の基本は授業です。定期考査等のテストに対して勉強して臨むことは言うまでもないことですが、授業の予習・復習のサイクルを確立させることが何より大切です。特に古典は予習をすることで授業の理解度が大きく変わる科目です。演習問題の読解をどんどん進めますので、事前に古文単語を調べて、自分で積極的に問題の読解に取り組むことが大切です。そして、覚えるべき文法事項が授業の中で出てきたら、自宅に帰って復習しましょう。古典は、知識が定着してくると的確な現代語訳ができるようになります。

皆さんと一緒に学習していくことをとても楽しみにしています。一緒に頑張って学習していきましょう。

【普通科】 3年次 【必修・選択】 科目「探究古典」授業のシラバス

4 授業計画

月	単元	時数	学習内容	観点別評価	到達目標	考查等
前期 4	基礎力養成	6	これまでに学習した、古文文法、漢文句形を復習しながら問題演習を繰り返すことによって、基礎力を充実させる。	① ③ ③	古文文法（助動詞、助詞、敬語、識別）や和歌の修辭に関する知識を定着させることができる。 漢文句形（再読文字、否定、使役、受身、疑問・反語、漢詩、限定・累加、比較・選択、仮定）や語彙に関する知識を定着させることができる。	小テスト(毎時間)
5		8		②	文法や句法、語句や文学史の知識を基にして、比較的短い古文・漢文の大意を理解し、設問に対して的確な答えを導くことができる。	
6	読解力養成	8		① ②	古典文法や句法、語句や文学史的な知識を基にして、比較的長い古文・漢文の大意を理解することができる。	前期中間考查 ノート提出 小テスト
7		8	古文・漢文を数多く読み、古文文法・漢文句形を確認しながら演習を繰り返すことによって読解力を充実させる。	③	設問の意図を的確に理解し、古文単語と文法および漢文句法、語彙の知識を基に、正しく答えることができる。	
8	センター試験対策①	4	センター試験演習（基礎問題）	② ①	古典文法や句法、語句や文学史の知識を基にして、文章の大意を理解することができる。 センター試験の解答時間を意識し、決められた時間内に問題を解き終えることができる。	
9		8		① ② ① ②	幅広いジャンルの作品の演習をととして、マークセンス式の問題に慣れることができる。 古典文法や句法、語句や文学史の知識を基に、文脈を手がかりにしながら解釈、訓読、文法問題の正答を導き出すことができる。 設問部分を正確に口語訳し、解答の根拠となる箇所を的確に解釈して正しい選択肢を導くことができる。	前期期末考查 ノート提出 小テスト
後期 10	センター試験対策②	10	センター試験演習（標準問題～発展問題）	②	「和歌」が含まれる文章について、和歌が詠まれるにいたった文脈を正しく理解し、修辭技法の知識を基に、助動詞・助詞に注意しながら、和歌の大意を掴むことができる。	
11		10		② ②	長い選択肢は、選択肢の文章を細分化し、本文の内容と照らし合わせて正しい選択肢を選ぶことができる。 本文の趣旨や展開に関する問題については、本文の趣旨、展開を的確に捉え、選択肢と本文を徹密に照らし合わせて、正しい選択肢を導くことができる。	後期中間考查
12		6				
1	2次試験・記述試験対策	2	2次試験問題演習	③ ②	2次試験過去問題の演習において、設問の意図を的確に理解し、古文単語と文法および漢文句法、語彙の知識を基に、正しく答えることができる。 「和歌」が含まれる文章について、和歌が詠まれるにいたった文脈を正しく理解し、修辭技法の知識を基に、助動詞・助詞に注意しながら、和歌を口語訳することができる。	
2						
3		計 70				

※ 観点別評価①は関心・意欲・態度、②は読む能力、③は知識・理解を表しています。

※ 授業計画は進度により前後することがあります。